

令和3年度(2021年度)

管理事業名	自然体験交流センター事業			総合計画の体系	大綱 4 子育て・学び 政策 3 青少年がすこやかに育つまちづくり 施策 1 青少年の健全育成
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費 (目) 5 自然体験交流センター費
部局名	地域教育部	予算執行所属	青少年室		
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
<p>事業の目的と概要</p> <p>【目的】青少年に集団での生活を通じて自然と共生し、あらゆる生物の命の尊さを体感する場を提供するとともに、市民に自然を生かした生涯学習及び交流の場を提供し、青少年の社会的及び豊かな人間性を育むことを目的としています。</p> <p>【概要】幼児から高齢者まであらゆる世代の市民が、自然の中でリフレッシュしながら自然体験活動や生涯学習の場として活動するとともに、交流の場として利用できるよう、施設の管理運営を行います。</p>					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
利用者数	人	45,510	11,688	15,862	1年間を通して自然体験交流センターを利用した人数
使用料収入	円	7,342,860	1,990,930	2,198,150	使用料の収入実績
成果の説明	<p>自然体験交流センターは、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨時休館、日帰り利用のみの受け入れや利用人数の半減などの利用制限により、例年のような施設運営はできませんでしたが、手洗い用蛇口の自動水栓化、サーマルカメラ検温システム付手指消毒液自動噴霧器を設置するなど、感染拡大防止策を徹底し、令和2年度と比較して利用者は4,174人増加しました。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	7,343	1,991	2,198	207
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	279	309	309	-
経常収入 小計(a)	7,622	2,300	2,507	207
給与関係費	8,691	1,513	1,506	△7
物件費	83,299	81,496	84,607	3,112
維持補修費	1,171	1,577	2,728	1,151
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	20,617	20,617	20,617	△0
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	2,651	131	116	△16
退職手当引当金繰入額	8,711	△7,882	71	7,953
支払利息	331	15	-	△15
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	125,472	97,468	109,646	12,178
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△117,850	△95,168	△107,139	△11,970
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△117,850	△95,168	△107,139	△11,970
一般財源充当額	114,445	86,613	86,564	△50
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△3,405	△8,555	△20,575	△12,020

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	指定管理委託料 8,390千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,622	2,300	2,507	207
行政サービス活動支出	94,478	87,369	89,071	1,701
行政サービス活動収支差額	△86,856	△85,069	△86,564	△1,494
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	27,589	1,544	-	△1,544
財務活動収支差額	△27,589	△1,544	-	1,544
収支差額 合計	△114,445	△86,613	△86,564	50
一般財源充当額	114,445	86,613	86,564	△50
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入) 自然体験交流センター使用料 2,198千円
----------	---------------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	令和元年度	45,540人	2,757円	自然体験交流センター利用者1人あたり6,912円のコストがかかっています。経常費用は増加したものの、利用者増加により、前年に比べて1,427円減少しています。
	令和2年度	11,688人	8,339円	
	令和3年度	15,862人	6,912円	
開所日1日あたりのコスト	令和元年度	322日	389,664円	自然体験交流センター1館で1日あたり375,500円のコストがかかっています。経常費用の増加により、前年に比べて37,070円増加しています。
	令和2年度	288日	338,430円	
	令和3年度	292日	375,500円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	131	116	△16
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	131	116	△16
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	665,804	645,187	△20,617	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	1,186	1,160	△27
建物・工作物	665,804	645,187	△20,617	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	1,186	1,160	△27
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	1,318	1,276	△42
建物・工作物	-	-	-	純資産	664,486	643,911	△20,575
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-	純資産の部合計	664,486	643,911	△20,575
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	665,804	645,187	△20,617
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	665,804	645,187	△20,617				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

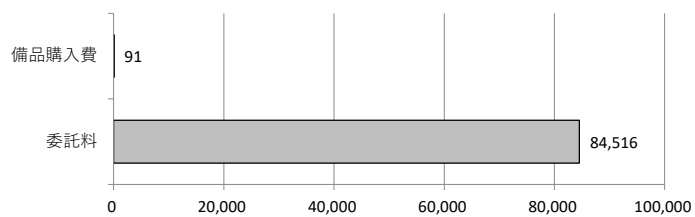
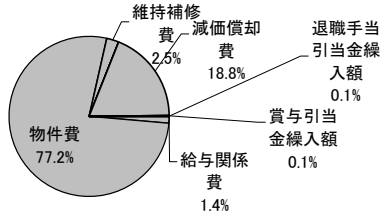
事業従事人数	常勤・再任用	会計年度任用等	特別職非常勤	合計(千円)
	月平均	年間従事延日数	年間従事延日数	
	0.2人	0日	10日	1,693
給与関係費等	1,609千円	0千円	84千円	
内、時間外勤務手当	0千円			

貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	自然体験交流センター建物の減価償却による減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市自然体験交流センター(わくわくの郷)
取得年月日	昭和36年(1961年)12月14日
建物・工作物の取得価額	1,068,372 千円
建物・工作物の減価償却累計額	423,185 千円
利用料金収入	2,198 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	差 B-A
			A	B	
施設維持補修費比率		0.1	0.1	0.3	0.2
施設老朽化比率		35.8	37.7	39.6	1.9
受益者負担比率		5.9	2.0	2.0	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		93.8	97.4	97.2	△ 0.2
経常費用対公共資産比率		11.7	9.1	10.3	1.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】

既存施設の老朽化が1.9%進行しました。

【行政コスト計算書】

経常費用の主なものについては、物件費84,607千円(77.2%)、減価償却費20,617千円(18.8%)、維持補修費2,728千円(2.5%)となっています。コスト全体の77.2%を占める物件費の内訳は全て委託料です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により経年比較が難しい部分はありますが、令和3年度は前年度と比較し利用人数及び使用料収入は増加しています。
市が負担すべき維持補修費の財源確保も含め、計画的に維持補修をすることで施設の魅力をさらに向上させるとともに、市と指定管理者が定例的に協議を行うことにより、普段から十分なコミュニケーションを取りながら、より一層の市民サービスの向上とより良い施設運営を目指します。